

山の百の花

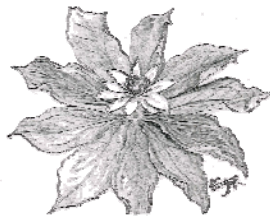
遠足員 入江 かをる

【21】キヌガサソウ(衣笠草)

キヌガサソウを初めて見たのは、北アルプス笠ヶ岳への山旅で、鏡池だった。その日の宿の鏡池山荘には午後早い時間に着いたので、周辺散策に出かけたところに咲いていた。兎に角、その大きさに驚いた。中心の白い花は掌サイズで、放射状に付いた葉を入れると両手を広げたくらいはあったと思う。ナナカマドの茂みの下に群落をなし、とても美しかった。

年を経て、中高年の山歩きを始めたとき、もう一度見たいと思ったのは、チングルマやミヤマキンバイの咲き乱れるお花畑であり、キヌガサソウだった。それが、今年の夏、爺ヶ岳・鹿島槍ヶ岳の山旅で実現した。まず柏原新道で、林の中で咲くキヌガサソウとサンカヨウの純白の花々に感激した。この2種の花は、しばしば一緒に見かける。そして、種池山荘に着くとすぐに、ガイドブックに書いてあったキャンプ地近くの群落を求めて出かけた。ここでもナナカマドの林の下で群落を作っていた。そのキヌ

ガサソウは、笠が30〜40cmと小さかったが、周囲の緑との調和も良く、期待通りだった。そこへ、針ノ木岳方面からの高校生パーティの遅れ組が来た。「種池までどの位ですか?」などと哀れな声で聞く。「すぐですよ」と励まし、来た道にキヌガサソウがもつとあったか聞いてみる。女子高生らは、「白い花?」と首をかしげる。どうやら、テント山行の肩の荷が重くて、花を楽しむ余裕など無かったらしい。



【22】コバイケイソウ(小梅蕙草)

コバイケイソウを初めて見たのは、北アルプスの三俣蓮華岳だったと思う。まだ、20代半ば、初めての北アルプスで(徳沢から蝶ヶ岳への日帰り登山を除けば)、雲ノ平への途中だった。今にして思えば、初心者にふさわしい山ではないが、夫とその友人の3人旅だった。当時、雲ノ平に最短で行

ける道と紹介されていた伊藤新道から入った。今は廢道となっているが、湯俣川沿いに登り、何度も吊り橋で川を渡るスリル満点(というより、恐怖)の道で、二度と通りたくないと思った。そして、やっと稜線に出たあたりの草原だったと思う。三俣蓮華岳を背景にしたコバイケイソウの写真が残っている。

一年位前、近種のコバイケイソウにまつわる興味深いTV番組を見た。大帝国を築きながら若くして亡くなったアレクサンダー大王の死因を探る話だった。治療のために、度々用いたコバイケイソウの中毒死ではないかという推論だった。確かに、コバイケイソウは有毒で(毒は使い方では薬となる)、春の芽生えを誤って食べる事故はあるようだ。去年の秋、遠足倶楽部の山旅で、種池山荘前の草原に花後のコバイケイソウの大群落を見た。今年の夏、花の写真を撮ろうと思ったのに、8月初旬にもかかわらず、ひと花も咲いていなかった。小屋の人の話では、コバイケイソウは周期的に咲くのだそう。一昨年は大豊作、去年も咲いたので、今年は咲きそうもないということだった。